



令和2年度光丘文庫後期展示

『グリーンイヤーズで振り返る

グリーンハウスと上映作品』

期間 令和2年10月2日(金)～令和3年3月26日(金)

■『週刊朝日』昭和38年(1963)10月4日号■

「港町の“世界一デラックス”映画館」という見出しで4ページの記事が掲載されている。映画評論家、淀川長治が「あれは、おそらく世界一の映画館ですよ」と言明したとあり、この記事でグリーンハウスは全国的に知られることとなる。これに対して佐藤久一はグリーン・イヤーズNo.551に「破格のお賞めをいただきました」と感謝のコメントを載せている。

■岸洋子の解説文■

グリーン・イヤーズNo.885の『ベニスの愛』について解説文を寄せている。岸洋子は昭和10年(一九三五年)3月27日酒田市生まれ。小学5年から加藤千恵に師事、東京芸術大学大学院声楽専攻科修了。大学卒業後二期会研究生になるが、心臓神経症になりオペラ歌手を断念。エディット・ピアフのLPに感動してシャンソン歌手に転向した。昭和36年(一九六一)キングレコードと契約。昭和39年(一九六四)「夜明けのうた」、昭和45年(一九七〇)「希望」で日本レコード大賞歌唱賞受賞。NHK紅白歌合戦には7回出場。昭和59年(一九八四)歌手生活25周年のリサイタル開催。平成4年(一九九二)敗血症のため57歳で他界した。昭和45年(一九七〇)、膠原(こうげん)病で倒れ入院、日本レコード大賞授賞式は電話対応、紅白歌合戦の出場は辞退している。しかし、この解説文が書かれた昭和46年に退院し再起を果たした。

『ベニスの愛』は白血病で余命いくばくも無い夫が、別居中の妻をベニスに呼び出し、これまでの様々な記憶を確かめようとする一日の出来事を描いた作品である。岸自身の体験と重なり、共感したのではないかと思われる。

参考文献：『酒田市史下巻』、『世界一の映画館と日本一のフランス料理店を山形県酒田につくった男はなぜ忘れ去られたのか』、『週刊朝日 昭和38年10月4日号』、『キネマ旬報No.93』、『キネマ旬報No.1800』、Wikipedia

■グリーン・イヤーズが
寄贈されました■

「グリーンハウス」は、昭和24年（一九四九）5月から昭和51年（一九七六）10月まで、酒田市の柳小路で営業していた洋画専門の映画館です。映画評論家淀川長治氏から「世界一の映画館」と賞賛されたほか、昨年公開のドキュメンタリー映画『世界一と言われた映画館』でも紹介されたように、閉館から44年を経過した現在でも映画ファンに語り継がれています。

この映画館で、昭和27年（一九五二）6月から閉館まで発行されていた小冊子が「GREEN YEARS」（グリーン・イヤーズ）です。この編集を担当していた小松登喜雄氏、門崎志郎氏が保管していた「グリーン・イヤーズ」1029冊を寄贈いただいたことから、このコレクションを展示し、上映作品を振り返るとともに、「グリーンハウス」が映画館の枠を超え、文化の発信基地として大きな役割を果たしていた記録を紹介します。

尚2か月ごとに展示内容を更新します。

■グリーンハウスについて■

グリーンハウスは、酒蔵だった建物をダンスホールに改築し、さらに改装した映画館である。観客が居心地よく、思う存分映画の世界に浸ることができる空間づくりのため、時代を先取りしたアイディアで次々と改装していく。回転ドア、正装した案内係、清潔な水洗トイレなど、まるで高級ホテルのような雰囲気だったという。その最高のおもてなしにより、観客も格別なお洒落をして行くようになる。上映の始まる合図として「ムーンライトセレナーデ」を流し、音量が小さくなるにつれ緞帳が上がるとの演出だった。館内一階には喫茶室「緑館茶房」が設置され、東京の「コクテール堂」から取り寄せた豆を挽いたコーヒーを提供した。二階の40席は指定席となっていたほか、A・B二つの特別室（五人・四人用貸切部屋）が設けられていた。昭和37年（一九六二）6月には、二階に定員10人のミニ映画館「シネ・サロン」がつくられ、新聞・週刊誌にとりあげられて、『週刊朝日』取材のきっかけとなった。映画評論で著名な淀川長治や萩昌弘もいろんな場で紹介・称賛の辞を惜しまなかったという。質の高い観客が増えることを願い、コミュニケーションをはかる目的から、懸賞論文の募集、座談会や映画評論家を招いての鑑賞講座、モニター制、友の会育成などを行っていた。鑑賞の手引きとして小冊子「グリーン・イヤーズ」が無料配布され、観客を喜ばせた。週の後の方では無くなってしまいうほど好評だった。

映画館として画期的だったのは、文化的な催しも行われていたことである。昭和29年（一九五二）の巖本真理のヴァイオリン独奏会を皮切りに、「グリーンリサイタル」を定期的に開催し、数多くの著名な音楽家たちがステージに立った。また、佐藤十弥を代表とする詩人たちがグリーンハウスを拠点として詩誌を発行していた。ステージには、彫刻家高橋剛の日展受賞の作品が飾られ、直木賞作家の講演会が行われた。このように映画だけに限らず、文化の発信も担っていた稀なる映画館だった。時代が変わり、テレビの発達と娯楽の多様化で映画興行が斜陽化していく中でも、グリーンハウスはきめ細かいサービスを保持し、いい映画を提供しようという姿勢が高く評価され、酒田市内で一番の興行成績を収めていたという。

昭和51年10月29日午後5時40分頃、グリーンハウスから出火し、瞬間最大風速26.7mという強風にあおられ、中心街は炎に包まれた。消防車217台、自衛隊などの応援で消火にあたったが、一晩で1774棟を焼失。被災所帯人数は1023世帯3300人、損害は405億円という大規模災害となった。この酒田大火の火元となったグリーンハウスは、市民の輝かしい青春の記憶に暗い影を落とし、長らく封印されることとなってしまった。40年余を経て、ドキュメンタリー映画が作られ、ようやく“伝説の映画館”を振り返り、語ることができるようになった。

■グリーンリサイタルについて■

▽第1回 昭和34年(一九五九)8月28日「藤原歌劇団」の戸田政子ソプラノ独唱会(グリーン・イヤーズNo.363) 戸田政子は広島県三次市に生まれ、現在の東京芸術大学、東京音楽学校を卒業後、日本の本格オペラの草分け的存在藤原歌劇団にデビュー。昭和28年(一九五三)の全米公演では「蝶々夫人」で好評を博す。昭和31年(一九五六)、アメリカで当時の人気テレビ番組「エド・サリバンショー」に、日本人としてはじめて出演。プリマドンナとしてのレパートリーは40曲近くを数える。

▽第2回 9月25日 坪田昭三ピアノリサイタル(グリーン・イヤーズNo.367)

坪田昭三は昭和24年(一九四九)東京音楽学校(現東京藝大)卒業。昭和25年(一九五〇)第19回日本音楽コンクール第3位入賞。翌昭和26年(一九五一)東京音楽学校研究科修了。同年、第1回リサイタル、その後、放送、オーケストラとの共演、巖本真理弦楽四重奏団との共演など、室内楽の分野でも活躍。これまでに、巖本真理、黒沼俊夫氏とのベートーヴェンのピアノ三重奏曲の連続演奏により、民放最優秀賞、巖本真理弦楽四重奏団との共演で、毎日芸術賞、明治百年芸術祭賞などを受賞。東京藝術大学名誉教授。

▽第3回 10月26日 ジュリアン・オレフスキーのヴァイオリンリサイタル(グリーン・イヤーズNo.370)

ジュリアン・オレフスキーは大正15年(一九二六)、ドイツのベルリン生まれ。父もヴァイオリニスト、従兄のポール・オレフスキーはフィラデルフィア管のチェロ奏者。幼時にアルゼンチンに移住、10歳でブエノスアイレスでデビューし、神童と騒がれた。昭和24年(一九四九)に米国デビューし、以後定住。昭和34年(一九五九)と昭和40年(一九六五)に来日。その演奏は端正で優美と評された。昭和60年(一九八五)死去。

▽第4回は11月26日、トーキョーコメディのパントマイム。第5回は12月28日、大賀典雄バリトンリサイタル。第6回は昭和35年2月26日、藤家光嗣クラリネットコンサート。第7回は3月22日、芦野宏シャンソンリサイタル。以降、砂原美智子(ソプラノ)、五十嵐喜芳(テノール)、ルジエロ・リッチ(ヴァイオリン)と錚々たるメンバーが続いた。(グリーン・イヤーズNo.373、376、384、386)

■支配人 佐藤久一のこと■

グリーン・イヤーズNo.300特別号に淀川長治の寄稿と支配人・佐藤久一の挨拶文が掲載されている。佐藤久一は酒田市に本社を置く酒造会社、東北銘醸株式会社の創業者・佐藤久吉の長男として昭和5年(1930)に生まれた。久吉は、昭和23年(1948)5月29日に開業したダンスホールを改修し、500席の映画館「グリーンハウス」を昭和24年(1949)5月17日にオープンさせた。翌昭和25年(1950)、久一は大学を中退し、同館の支配人となる。その類まれなる才能を発揮して、酒田の人々にとっての社交場であり東京と遜色ない最新の情報発信スポットでもある映画館を作り上げた。しかし、昭和39年(1964)、久一はグリーンハウスを退職し、上京。日生劇場を経て、3年後の昭和42年(1967)にフランス料理店「レストラン樺」を、43年(1968)にはレストラン「ル・ポットフー」を相次ぎ酒田市でオープンさせる。庄内の海の幸山の幸を提供する名店として全国に名をはせた。久一が退社した後も「グリーンハウス」は洋画ロードショー館として営業を続けていたが、酒田大火の火元となり焼失。久一が作り上げた地元自慢の映画館は忌まわしい記憶に変わり、その名を口にするのも憚られることとなる。しかし、平成20年(2008)に『世界一の映画館と日本一のフランス料理店を山形県酒田につくった男はなぜ忘れ去られたのか』岡田芳郎・著(講談社)が出版され、佐藤久一の功績が評価される契機となった。

■講演会■

▽映画評論家荻昌弘の講演会を昭和31年(一九五六)6月26日開催(グリーン・イヤーズNo.210)。カンヌ映画祭グランプリ受賞作品『洪水の前』上映を機に開催とある。

▽直木賞作家安藤鶴夫の講演会のみちのく豆本主催で昭和44年(一九六九)5月13日に行われた(グリーン・イヤーズNo.776)。『明治はるあき』を同時上映。安藤鶴夫は明治41年(一九〇八)東京浅草生まれ。小説家、落語・歌舞伎評論家、演芸プロデューサー。昭和38年(一九六三)『巷談本牧亭』で第50回直木賞受賞。

■グリーン・イヤーズとは■

「GREEN YEARS」(グリーン・イヤーズ)は、入場券購入時に窓口で配布されていた小冊子で、上映中の作品のあらすじ、スタッフやキャストの情報等が載せられている。発行を支えた市内の商店の広告なども掲載されており、当時の商店街の賑わいを思い起させる。第1号は昭和27年(1952)6月に発行され、昭和51年(1976)10月の第1029号まで続いた。光丘文庫には欠本6冊を除く1,023冊と小松賢三氏作成の目録が所蔵されている。

■巖本真理ヴァイオリン独奏会■

昭和27年9月16日に開催(グリーン・イヤーズNo.17)された。翌日付の出羽新報には「満員の聴衆を集めて盛況裡に終わった」とある。

巖本真理(一九二六―一九七九)は、東京出身のヴァイオリニスト。巖本善治(評論家・女性教育者)の孫。5歳より小野アンナに師事し、昭和12年11歳で音楽コンクール第1位に入賞。昭和14年(一九三九)以後、独奏者として活躍。昭和21年から25年まで東京音楽学校(現東京芸大)教授。昭和27年(一九五二)、東京交響楽団に客演した際のシベリウスの協奏曲の演奏により毎日音楽賞受賞。また室内楽を斎藤秀雄に学び、昭和39年(一九六四)「巖本真理弦楽四重奏団」を発足させて定期演奏会を重ね、室内楽の普及・発展に努めた。同団は昭和47年芸術選奨文部大臣賞、昭和54年サントリー特別賞などを受賞した。昭和54年(一九七九)5月11日、53歳で死去。

■グリーン・ニュースとは■

「Green News」(グリーン・ニュース)は、「グリーン・イヤーズ」発刊前の昭和24年5月から昭和27年6月までグリーンハウスが発刊した小冊子である。光丘文庫には第8号(1949年7月発行)、第15号(1949年8月発行)、第17号(1949年9月発行)、第24号(1949年11月発行)、第29から30号(1949年12月発行)と図書館作成の目録が所蔵されている。

■詩誌『緑館』■

グリーンハウスを拠点とした詩人たちによって、詩誌『緑館』が昭和29年(一九五四)12月発刊された。代表者は佐藤十弥で、第三期第二号(昭和35年6月、通巻26号)まで続いた。同人には佐藤十弥のほか祝婚歌で知られる吉野弘・成田晴夫・大瀧安吉・太田清蔵・大内句鬼(俳人)などがいて、一人一ページずつを受持つという趣向で出発したが、のちに広く呼びかける方針に変わり、加藤四郎・成田邦雄・菅原桂太郎・吉村芳美・佐藤素世なども作品を寄せている。グリーン・イヤーズNo.101の表紙には佐藤十弥の寄稿詩「緑館幻想」が載せられ、以降No.120まで数回、ハイネやゲーテの詩が掲載されている。

■懸賞論文■

「出羽新報」昭和26年(1951)6月17日付には懸賞論文入選発表の記事が掲載されている。入賞は賞金1000円と年間入場パスとある。グリーン・イヤーズNo.49では「女性の観客層をいかにして動員すべきか」、また開館九周年記念の懸賞論文では「グリーンハウスをより美しくするために」という題目で募集された。

■木彫『水着』■

グリーン・イヤーズNo.118・119に正面ステージの木彫「水着」は高橋剛の昭和27年度日展入選作とある。

高橋剛(一九二一―一九九一)は酒田市千代田出身の彫刻家。生家は代々神社仏閣の木彫を業とし、東京美術学校(現東京芸大)彫刻科を卒業後、関野聖雲、北村西望に師事した。バレエダンサーや裸婦像の制作を中心にし、昭和22年(一九四七)日展に初入選後、日展、日彫展で活躍。昭和60年(一九八五)、第17回日展に出品した「稽古場の踊り子」で日本芸術院賞・恩賜賞を受賞した。

平成3年(一九九一)6月、故郷の芸術文化の振興のため彫刻作品の石膏原型178点を酒田市に寄贈。同年9月逝去。酒田市では、寄贈された原型をもとに平成4年から数点ずつ鑄造を行い、酒田市美術館の主要な常設展示作品となっている。

(酒田市美術館HPより)

GREEN YEARS 展示リスト

第1期(10月・11月) No.1(1952年6月)~No.340(1959年2月)

No.1 地球最後の日	No.5 天井桟敷の人々	No.6 黄色いリボン
No.10 宝島/サムソンとデリラ	No.16 巴里のアメリカ人	No.26 真昼の決闘
No.41 肉体の悪魔	No.55 イヴの総て	No.57 誰が為に鐘は鳴る
No.60 遠い太鼓	No.61 雨に唄えば	No.68 見知らぬ乗客/陽のあたる場所
No.76 シンデレラ姫	No.78 第三の男	No.91 不思議の国のアリス
No.94 バンビ	No.96 紳士は金髪がお好き	No.97 地上最大のショウ
No.98 禁じられた遊び	No.100 風と共に去りぬ	No.104 地上より永遠に
No.107 シェーン	No.108 ターザンの憤激/キング・コング	No.112 クオ・ヴァディス
No.122 私は告発する	No.124 ダンボ	No.125 ローマの休日
No.126 陽気なドン・カミロ	No.134 こぐま物語	No.135 恐怖の報酬
No.138 モダン・タイムス	No.141 ダイアル M を廻せ!	No.146 波止場
No.152 麗しのサブリナ	No.155 ロミオとジュリエット	No.157 裏窓
No.173 喝采	No.182 スタア誕生	No.187 エデンの東
No.197 旅情	No.198 泥棒成金	No.208 必死の逃亡者
No.211 七年目の浮気	No.217 海底二万里	No.219 理由なき反抗
No.220 ハリーの災難	No.224 リチャード三世	No.231 知りすぎていた男
No.241 搜索者	No.244 居酒屋	No.255 戦争と平和
No.259 ジャイアンツ	No.262 ノートルダムのせむし男	No.265 わんわん物語
No.267 間違えられた男	No.270 道	No.272 追想
No.282 昼下りの情事	No.284 パリの恋人/カピリアの夜	No.288 翼よ! あれが巴里の灯だ
No.290 菩提樹	No.314 女優志願	No.322 悲しみよこんにちは
No.324 死刑台のエレベーター	No.331 モンパルナスの灯	No.335 八十日間世界一周
No.340 めまい		

※一部コピーを展示します。

全期間中(10月-3月)展示する資料

『緑館』-詩のノート第3期第1号- 昭和35年(1960)1月 佐藤十弥著
グリーンハウス発行

『週刊朝日』 昭和38年(1963)10月4日号

☆『もぎりよ今夜も有難う』平成22年(2010)8月 片桐はいり著
キネマ旬報社発行

☆『世界一の映画館と日本一のフランス料理店を山形県酒田につくった男はなぜ忘れ去られたのか』平成20年(2008)1月 岡田芳郎著 講談社発行

『キネマ旬報No.93 1954年6月上旬号』-旬報サロン☆酒田の映画館-
昭和29年(1954)6月 キネマ旬報社発行

☆『キネマ旬報No.1800 2019年1月下旬新春特別号』-「世界一と言われた映画館」対談- 平成31年(2019)1月 キネマ旬報社発行

『出羽新報』-(懸賞論文入選発表)- 昭和26年(1951)6月17日

『出羽新報』-(巖本真理独奏会お知らせ)- 昭和27年(1952)9月14日

『酒田日日新聞』-(リサイタルお知らせ)- 昭和34年(1959)8月26日

『開館9周年記念 懸賞論文発表』グリーンハウス発行

『GREEN YEARS No.17』-独奏会お知らせ- 昭和24年(1949)5月

『GREEN YEARS No.49』-懸賞論文募集- 昭和28年(1953)3月

『GREEN YEARS No.101』-緑館幻映- 昭和29年(1954)2月

『GREEN YEARS No.119』-木彫水着- 昭和29年(1954)6月

『GREEN YEARS No.176』-緑館茶房- 昭和30年(1955)10月

『GREEN YEARS No.210』-荻昌弘講演会- 昭和31年(1956)6月

『GREEN YEARS No.300』-淀川長治寄稿- 昭和33年(1958)5月

『GREEN YEARS No.499』-シネサロン- 昭和37年(1962)7月

『GREEN YEARS No.551』-週刊朝日- 昭和38年(1963)10月

『GREEN YEARS No.776』-安藤鶴夫講演会- 昭和44年(1969)4月

『GREEN YEARS No.885』-岸洋子解説- 昭和46年(1971)10月

※一部コピーを展示します。 ※☆印は酒田市長図書館所蔵

GREEN YEARS 展示リスト

第3期(2月・3月) No.681(1966年12月)~No.1029(1976年10月)

No.686 続・荒野の用心棒	No.688 男と女	No.689 ネバダ・スミス
No.690 おしゃれ泥棒	No.691 バルジ大作戦	No.694 メリー・ポピンズ
No.698 戦争と平和	No.699 夕陽のガンマン	No.702 ドクトル・ジバゴ
No.706 パリは燃えているか	No.711 007は二度死ぬ	No.720 グラン・プリ
No.725 大西部への道	No.728 続夕陽のガンマン	No.733 俺たちに明日はない
No.742 暗くなるまで待って	No.744 猿の惑星	No.749 卒業
No.763 アンナ・カレーニナ	No.772 ブリット	No.773 荒鷲の要塞
No.776 ロミオとジュリエット	No.787 ローズマリーの赤ちゃん	No.795 イエロー・サブマリン
No.800 勇気ある追跡	No.807 チキ・チキ・バン・バン	No.808 ワイルドバンチ
No.819 if もしも…/真夜中のカーボーイ	No.829 イージーライダー/明日に向かって撃て	
No.854 いちご白書	No.855 続猿の惑星/M*A*S*H	No.856 クリスマス・キャロル
No.859 トラ・トラ・トラ!	No.863 レット・イット・ビー	No.869 エルビス・オン・ステージ
No.886 小さな恋のメロディ	No.893 栄光のル・マン/小さな巨人	No.894 ある愛の詩
No.901 007ダイヤモンドは永遠に	No.903 レッド・サン	No.907 ダーティー・ハリー
No.909 屋根の上のバイオリン弾き	No.912 フレンチ・コネクション	
No.914 時計じかけのオレンジ	No.920 死刑台のメロディ	No.931 ゴッド・ファーザー
No.935 ザ・ビートルズ特集	No.942 ジョニーは戦場へ行った	
No.945 ポセイドン・アドベンチャー	No.958 燃えよドラゴン/ジャッカルの日	
No.959 スケアクロウ	No.969 ペーパー・ムーン	No.974 パピヨン
No.976 エクソシスト	No.983 スティング	No.994 アメリカン・グラフィティ
No.999 ゴッド・ファーザーPART II	No.1001 タワーリングインフェルノ	
No.1006 オリент急行殺人事件	No.1009 ジョーズ	No.1023 カッコウの巣の上で

※一部コピーを展示します。

GREEN YEARS 展示リスト

第2期(12月・1月) No.341(1959年3月)~No.680(1966年12月)

No.359 リオ・ブラボー	No.362 大いなる西部	No.366 十二人の怒れる男
No.368 灰とダイヤモンド	No.371 尼僧物語	No.373 ワーロック
No.374 北北西に進路を取れ	No.381 十戒	No.400 太陽がいっぱい
No.404 騎兵隊	No.427 チャップリンの独裁者	No.428 許されざる者
No.435 眠れる森の美女	No.440 アパートの鍵貸します	No.446 素晴らしい風船旅行
No.455 サイコ	No.472 片目のジャック	No.478 ティファニーで朝食を
No.483 情事	No.495 ベン・ハー	No.501 荒野の七人
No.504 アラモ	No.505 スパルタカス	No.507 ハスラー
No.508 リバティ・バランスを射った男	No.510 ナパロンの要塞	No.512 エル・シド
No.518 怒りの葡萄	No.519 世界残酷物語	No.527 太陽はひとりぼっち
No.530 野いちご/噂の二人	No.532 栄光への脱出	No.538 ニュールンベルグ裁判
No.545 101匹わんちゃん大行進/ハタリ!	No.547 ウエスト・サイド物語	
No.551 007は殺しの番号	No.557 戦場にかける橋	No.559 史上最大の作戦
No.561 アラビアのロレンス	No.563 グレン・ミラー物語	No.568 地下室のメロディー
No.575 大脱走	No.578 奇跡の人	No.580 シャレード
No.581 鳥	No.588 山猫	No.596 パリで一緒に
No.602 007危機一発	No.604 ビートルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ!	
No.605 ローマ帝国の滅亡	No.613 シェルブールの雨傘	No.614 東京オリンピック
No.615 西部開拓史	No.617 大列車作戦	No.618 ハムレット
No.630 西部戦線異常なし	No.637 007 ゴールドフィンガー	No.641 シャイアン
No.642 クレオパトラ	No.650 マイ・フェア・レディ	No.651 荒野の用心棒
No.654 サウンド・オブ・ミュージック	No.655 テレマークの要塞/素晴らしきヒコーキ野郎	
No.659 007サンダーボール作戦		

※一部コピーを展示します。